施 策 評 価 シ ー ト

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 都市計画課

施策名	31 都市計画・土地利用
政策名	快適な「暮らし」を造る
施策がめざす将来の姿	・市街地中心部ににぎわいがあり、適切な土地利用が進むことで住みやすいまちになっています。
	0

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
居住誘導区域への転入人口	人	518	595		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	600	585	654		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
市街地中心部への来訪者数/月	人	151,104	196,000		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	148634	144322	149,774		

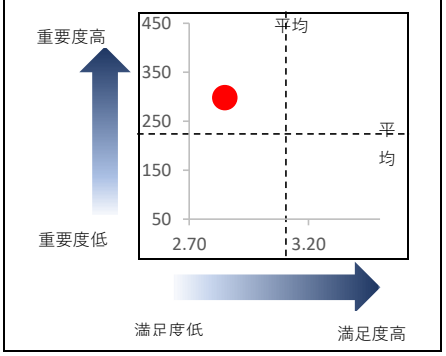
3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和7年度
298

満足度（満足している市民の割合）／単位（%）		
令和6年度		**令和7年度**
74.2	→	73.7

※増減（→）の基準は３ポイント以上とする

R7重要度・満足度（他の施策と比較した位置）



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

立地適正化計画、都市再生整備計画に基づき、居住誘導施策に取り組んでいるが人口減少の流れに変化はなく、市街地中心部においても厳しい状況が続いています。都市構造再編集中支援事業による遊歩道整備は令和７年度に完了しましたが、土地の価格や商圏としての評価に変動はありません。令和８年度は、ウォーカブルなまちづくりを推進すべく、次期整備計画の検討及びソフト事業として「セキ日和」などのにぎわい創出事業を展開し、中心市街地での人材育成、まちづくりを進めます。また、本町通り商店街のウォーカブルなまちづくりに向けた取組として、道路空間再編を目指した生活社会実験の実施や、「中心市街地活性化エリア計画」に基づく、空き店舗・空き地・リノベーション可能な物件等の活性化プランを実現可能なものとするため、都市再生推進法人の指定を行い、取組を推進します。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

事務事業①：まちづくり計画事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
76,879	都市再生整備計画事業	**完了**	**完了**	中心部のにぎわい創出を目指し、次期整備計画について検討し、ウォーカブルなまちづくりを推進します。	○

事務事業②：古民家運営事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
12,992	古民家運営事業	→	↗	指定管理者と調整を行いつつ、ミーティングスペースなどの活発な利用を促進していきます。	